

ウッズガーデンひめはるの里の近くにあるこの公民館は、ヒメハルゼミの鳴く八幡山を背負い、南側に一面の田んぼが見渡せる場所にあります。その敷地の横に「千葉三郎記念館」が、建物の前には彼の銅像があります。



これは三郎の政界引退時、後継者として衆議院議員となった石橋一弥^{かずや}を中心に千葉三郎顕彰会が結成され、彼の功績と遺徳をたたえ昭和56年11月に銅像が、翌年同月に記

「天夢と三郎」

千葉三郎の父、千葉天夢は眼科医でありながら、郷土の産業・公共事業・教育に献身した人物です。

農業においては、燠炭肥料^{くんたん}を立木の高橋喜惣治^{きそじ}とともに創案し、千葉県で最初に土地改良事業を行いました。茂原市といえば天然ガスを連想する方も多いと思いますが、そ

念館が建てられたものです。銅像の除幕式には岸信介^{のぶけ}元首相など多くの人々が参列しました。完成後は市に寄付され、現在は鶴枝公民館の附属施設となっています。



記念館内には千葉三郎に関する数々の記念品が陳列されており、前述のテーマ展では多くのものがここから借用されました。

の天然ガスの開発に力を注いだのも彼です。

また、郷土の教育にも貢献し、私立大成館^{たいせいかん}（県立長生高校の前身）や私立静和女学校（県立茂原高校の前身）の初代館長・校長を務めています。

その偉業をたたえた銅像が建立され、現在はかつて両校のあった茂原公園の入口で見ることが出来ます。

また、陳列棚の向かいには図書室があり、彼の蔵書が収められています。背表紙の多くは色あせたりしていますが、タイトルを眺めるだけでも彼の時代を生きた息遣いとエネルギーが感じられます。

テーマ展を見逃してしまつた方は、機会を見て出掛けてみてはいかがでしょうか。

▼最後に

テーマ展で取り上げた千葉三郎については、活躍の広さが多岐にわたり、こういう人だと一言で表すことができませんでした。

けれども別の角度から見ると、まるで万華鏡をのぞいたように違った色をした千葉三郎の魅力が次々と映し出され

親子2人の姿をそれぞれ見比べてみるのもいいですね。



▲千葉 天夢



▲千葉 三郎

ます。それは今後も郷土資料館が研究するテーマですので、改めて別の形で紹介したいと思います。

《参考文献》
「四十五年の今昔」(千葉三郎)「創造に生きて」
「わが生涯のメモ」(同市)
「ふるさと茂原のあゆみ」(茂原市)

【いぼれ話】

前回の『ハロータウン』第96号(広報もばら1月15日号)の「覚えていますか」の囲み記事に、茂原公園にあった展望台の写真があります。現在は撤去されていますが、この展望台は昭和52年に、茂原市制施行25周年を記念して建造されたものでした。この他にも記念行事として記念植樹や

市民憲章碑の建立、記念式典などが行われました。展望台の写真は『広報もばら』昭和52年12月号に掲載された記念行事の特集ページから引用したのですが、同じページに、名誉市民に推挙された千葉三郎が婦人とともに記念式典に列席されている写真が載っています。



▲名誉市民に推挙された千葉三郎さん(左)